

2 研究の実際 > (2) 授業の実際

カ 検証結果<小学校>

【検証の視点 I】

児童が持つ「強み」に着目した交流活動が自己肯定感の高まりにつながったか。

【検証の視点 I - A : 「自分自身に関する自己肯定感」に関する項目】

オ 検証内容と検証方法 について

↑こちらをクリックすると、検証内容と検証方法を見ることができます。

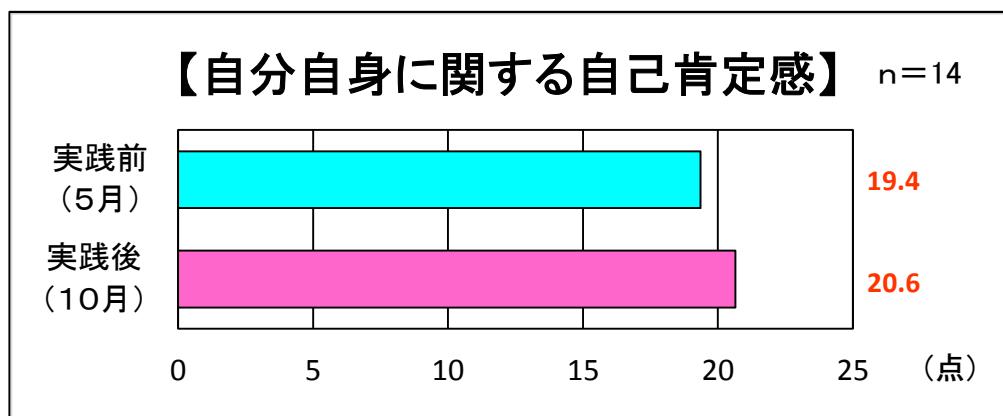


図1 児童の「自分自身に関する自己肯定感」に関する意識と行動の変化 (全体)

○授業実践の前後で、全体では数値が 1.2 ポイント上がりました (図 1)。項目別でも、全体的に数値が上がっており、特に、「自分のことが好きだ」「自分の中には様々な可能性がある」で 0.4 ポイント上がりました (図 2)。また、児童の振り返りシートには、「これからも自分の『強み』を生かしていきたいです」「『強み』を見つけて、ぼくは、いろんな自信を持ちました。これからも、どんどん見付けたいです」「『強み』はこれからの人生に役立つと思った」という記述が多く見られました。これらのことから、児童が持つ「強み」に着目した交流活動を通して、児童が自分の「強み」に気付いたことにより、「自分自身に関する自己肯定感」を高めることができたと考えます。

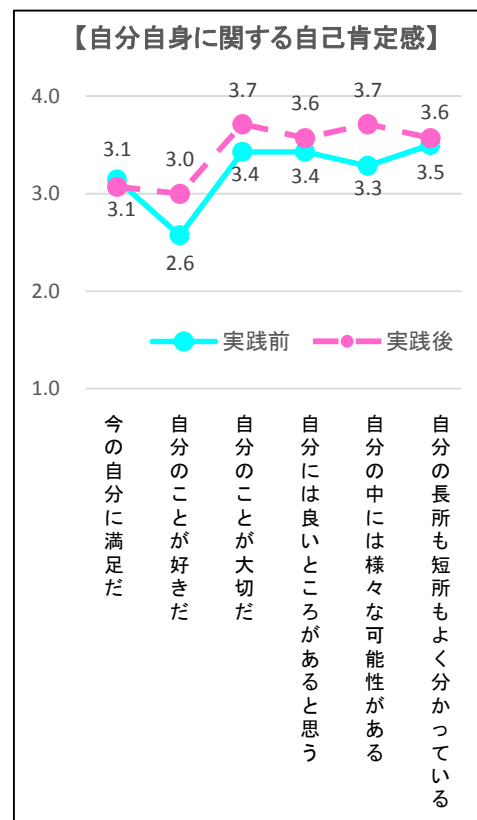


図2 児童の「自分自身に関する自己肯定感」に関する意識と行動の変化 (項目別)

【検証の視点 I-B：「友達との関係を通じた自己肯定感」に関する項目】

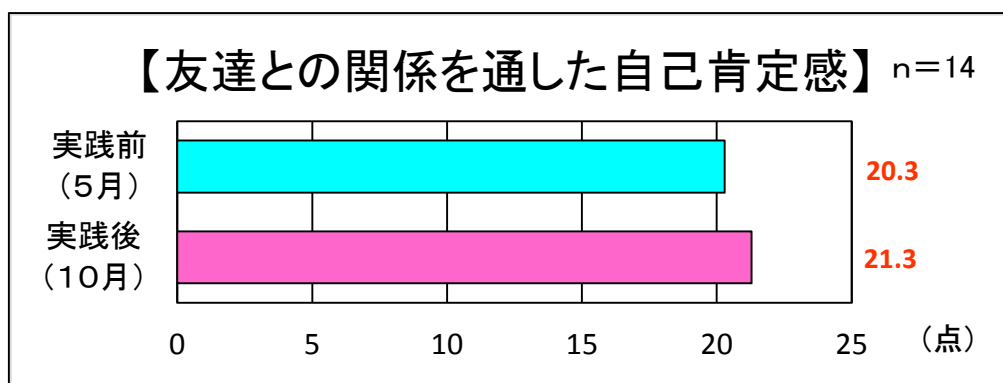


図3 児童の「友達との関係を通じた自己肯定感」に関する意識と行動の変化 (全体)

○授業実践の前後で、全体では数値が1.0ポイント上がりました(図3)。項目別でも、全体的に数値が上がっており、特に、「友達から信頼されていると思う」「友達と一緒にいると安心できる」で0.3ポイント上がりました(図4)。また、児童の振り返りシートには、「自分が分からなかったことを友達が気付いてくれていたのでびっくりしました」「自分が知らなくても友達が見ていたんだなと思いました」「最初は『強み』が見付けられなかったけど、友達が見付けてくれたので分かりました」という記述が多く見られました。これらのことから、児童が持つ「強み」に着目した交流活動を通して、児童が自分の「強み」を友達から伝えてもらったことにより、「友達との関係を通じた自己肯定感」を高めることができたと考えます。

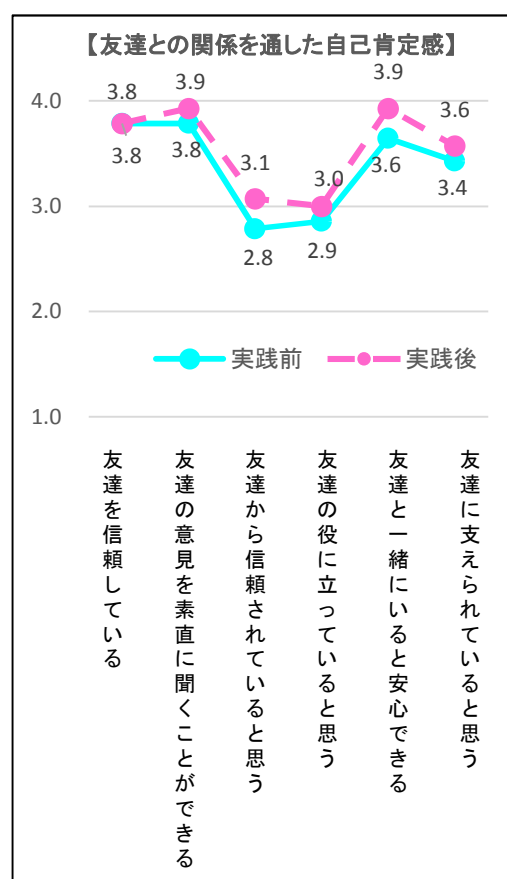


図4 児童の「友達との関係を通じた自己肯定感」に関する意識と行動の変化 (項目別)

【検証の視点Ⅱ】

児童が持つ「強み」に着目した交流活動が互いに自他のよさを認め合うことのできる人間関係を築くことにつながったか。

【検証の視点Ⅱ－A：学級の雰囲気】

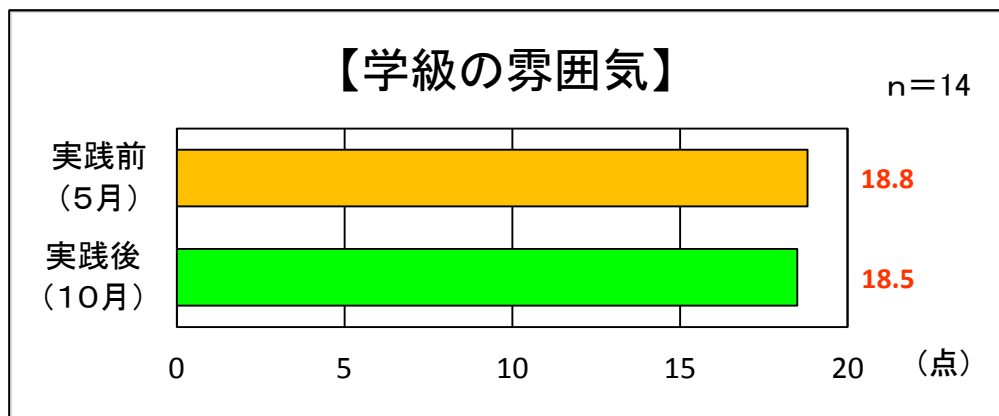


図5 児童の「学級の雰囲気」に関する意識と行動の変化（全体）

○授業実践の前後で、全体では数値が0.3ポイント下がりました（図5）。項目別では、特に、「だれかが悲しむような言動はない」が0.4ポイント下がりました（図6）。担任への聴取から、思春期を迎えた女児の友達関係のトラブルが影響したと推測されます。しかし、「問題があったとき、みんなで考え解決しようとしている」で0.2ポイント上がっていることや（図6）、児童の振り返りシートに「自分の『強み』と友達の『強み』を知ることができました。自分と友達の『強み』を生かしていけたらいいなと思いました」という記述が見られることから、児童が互いの「強み」を生かして、学級のトラブルをみんなで解決しようとしている姿がうかがえます。これらのことから、数値は下がったものの、児童が持つ「強み」に着目した交流活動を通して、児童が互いに自他の「強み」を生かしていきたいという思いを持つことができたと考えられます。今後も、児童の実態に即して「強み」に着目した授業実践を重ねることにより、「学級の雰囲気」が良くなると考えます。

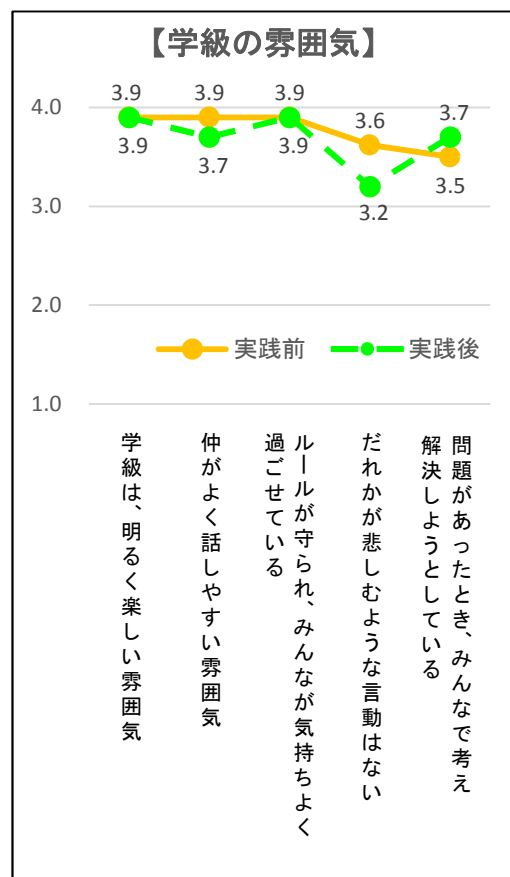


図6 児童の「学級の雰囲気」に関する意識と行動の変化（項目別）

【検証の視点Ⅱ-B：友達との関係】

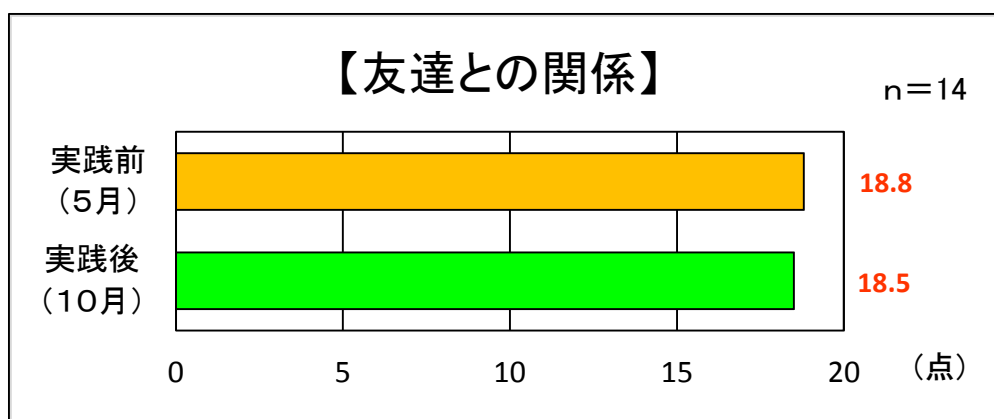


図7 児童の「友達との関係」に関する意識と行動の変化 (全体)

○授業実践の前後で全体では、数値が 0.3 ポイント下がりました (図7)。項目別では、「悪口や暴力などで傷付けられることはない」が、0.3 ポイント下がりました。(図8)。これは、「学級の雰囲気」の考察でも述べたように、女兒の友達関係のトラブルが影響していると思われます。しかし、「何でも話せて分かってくれる友達がいる」で 0.3 ポイント上がっていることや、児童の振り返りシートに、「友達が困っているときは、自分の『強み』を生かして助けあげたいなと思いました」「『ステップ アップ ウェビング』で自分の苦手なところを解決するアイデアを友達に教えてもらって運動会で生かせた」という記述が見られたことから、自他の「強み」を生かして助け合う良さを感じていると思われます。これらのことから、全体の数値は下がったものの、児童が持つ「強み」に着目した交流活動を通して、互いに自他の「強み」を伝え合ったことにより、今後、学級における「友達との関係」が良くなっていくことが期待できると考えます。

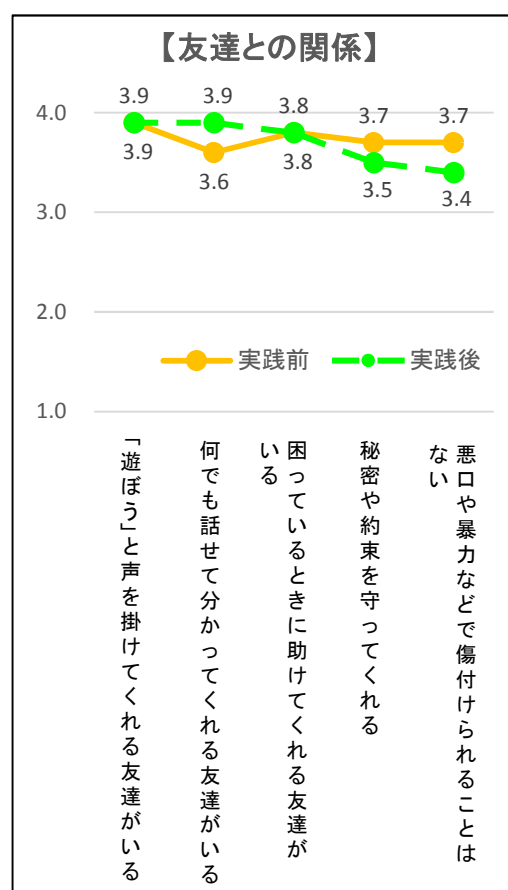


図8 児童の「友達との関係」に関する意識と行動の変化 (項目別)